

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		子ども教育学科		
科目名称	時事問題研究						授業形態	講義	
科目コード	750016	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員	○	アクティブラーニング	○
担当教員名	外前田 孝							ICT活用	○
授業概要	<p>宮崎県の地方紙、宮崎日日新聞社に2021年3月まで35年間勤務し、丸30年を記者として過ごした経験に基づき、授業を展開したい。</p> <p>新聞やテレビやネットメディアは、連日さまざまな事件や事故などのニュースを報じている。受け手である私たちはとすると、膨大なニュースの海におぼれそうになる。それらのニュースはたいてい現象であり、そのおおもとにある本質は見えづらい。この講義では、いくつかの今日的なテーマを選び、新聞や雑誌の記事などを手掛かりにニュースの本質をとらえる訓練を行う。それを通して、自分たちがどんな時代を生きているかを知るとともに、これから実社会で生きるための問題意識並びにニュースを見る目、さらには民主的な精神を培うことを目指す。</p>								
関連する科目	社会学、経済学、国際関係論、メディア論、法学、日本国憲法、倫理学、環境問題入門								
授業の方法と進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・講義用のレジュメを基本的に作成し、コピー資料を用意する。 ・パワーポイントを用い、動画なども放映しながら分かりやすい授業を心掛ける。 ・意見交換をする時間を取る。 ・毎回、「今」という時代の本質が見えるような展開を心掛ける。 								
授業計画【第1回】	自己紹介＋総論「現象と本質の話」＋新聞の読み方 (私たちはマスメディアやネットなどの膨大な情報に取り囲まれて生活していますが、日々発信される時事ネタ・ニュースはある意味、「現象」と言えます。しかし、その現象を深堀りしていけば「本質」にたどり着くことができるはずですが。そして自分たちがどんな時代に生きているのかが分かってきます。総論では、戦後の時代の変遷、新自由主義などについて解説した上で、新聞の構造・構成、その読み方を具体的に示します)								
授業計画【第2回】	マイナンバーカード問題 (当初は任意とされていたマイナンバーカードですが、政府が方針を転換し、事実上義務化されました。マイナカードを巡っては、コンビニの証明書発行サービスで住民票の誤交付が確認されたのを皮切りに、問題が次々と広がっています。健康保険証と一体化した「マイナ保険証」では別人の情報を登録するミスが約7400件発覚したほか、医療機関で情報を読み取れず、患者が窓口で全額を負担させられるケースも相次ぎます。また、公的給付金の受取口座をひも付ける際に本人ではない口座を登録したケースも約13万件判明しています。こうした問題を抱えながらも、なぜ政府は進めようとするのか、その狙いは何なのかを考えてみたいと思います)								
授業計画【第3回】	トリチウム汚染水と原発問題 (福島第一原発事故で発生し続ける放射能の汚染水。漁業者らの反対の声を無視した形で、海洋への放出が強行されました。メルトダウンという最悪の事故以前から日本の原発はこれまでも大小の事故・トラブルを引き起こしてきました。そして核燃料サイクルは破綻したまま、核のごみは増え続けています。にもかかわらず、政府は老朽化した稼働60年超の原発まで運転させ、新型原子炉まで建設するというように原子力政策を転換しました。なぜ原発に固執するのか。再生エネルギーの普及になぜ本腰を入れないのか。ドイツが脱原発の道を歩み始めた中で、日本の原発問題にメスを入れてみたいと思います)								
授業計画【第4回】	戦争と憲法～ウクライナ戦争を手掛かりに (2022年2月にロシアがウクライナに侵攻して始まった戦争は短期間で終結するどころか、両国軍の兵士とウクライナ国民の死傷者を増やしつつ止む気配がありません。無人機・ドローンなどあらゆる武器・弾薬が投入され、「武器の見本市」みたいな状況を呈しており、ウクライナの国土の破壊は目を覆うばかりです。そうした中で、日本は防衛費を倍増し、敵基地攻撃能力(反撃能力)の保有を可能にする安保3文書を岸田政権が閣議決定しました。日本国憲法はこれまで専守防衛を基本としてきましたが、それを覆す大転換です。日本がかつて戦争したことも原爆を落とされたことも知らない若者が増えつつある中、戦争とは何なのか、なぜ戦争はなくなるのか、を考えてみたいと思います)								
授業計画【第5回】	障がい者と共に生きる (記者活動をする中で、多くの障がい者やその家族を取材してきました。私が出会った障がい者たちを具体的に紹介しながら、障がい者から私たちは何を学べるのか、障がい者とどうすれば共生できるのかを一緒に考えられたら、と思います)								
授業計画【第6回】	教養が危ない～文系軽視の流れ (新自由主義が席卷する中、日本では1990年代以降、大学設置基準の大綱化に伴い、教養教育が実質的に解体され、高等教育の公財政支出はGDP比でメキシコや韓国よりも低くなり、2015年には文科省が地方国立大学の教育関連学部を設置されていた「人文社会学系コースを全廃する」方針を決定しました。教養とはそもそも何なのか、その歴史的沿革をたどりながら、なぜ文系学部は大事なのかを考えたい)								
授業計画【第7回】	食卓の向こう側～健康な食と農のあり方 (今の大学生たちの食生活の実態を紹介しながら、オーガニックとは何か、農業はなぜ体に悪いのか、生活習慣病の怖さ、さらには国連が今なぜ各国政府に「家族農業(小農)」の推進を求めるとともに、これを共に考えてみたいと思います)								
授業計画【第8回】	地方の危機①～現状 (地方は戦後の高度経済成長期以降、バブル経済、構造改革を経て疲弊し続けています。少子高齢化はむろん、耕作放棄地や空き家の増加は止まらず、「限界集落」が増え、あと10年後には消滅する集落も出てきそうな状況です。国は「リゾート構想」「市町村合併」「地方創生」を推進し、いまは「デジタル田園都市国家構想」を掲げて地方再生に取り組んでいますが、国策は失敗を重ね、成果が上がっているようには見えません。戦後地方の歴史的沿革を振り返りながら、地方の危機の現状をあぶり出したいと思います)								
授業計画【第9回】	地方の危機②～打開策 (地方の活性化策は企業誘致のほか「リゾート構想」「市町村合併」「地方創生」とさまざまに進められてきましたが、上手くいっていないようには見えません。ではどうしたらいいのか。藤山浩さんの「田園回帰1%戦略」やムラたび九州のアグリツーリズムなどをヒントに、打開策を共に考えてみたい)								

授業計画【第10回】	気候変動 (今年は北海道や東北でも連日30度を超える猛暑が続き、台風がこれまでにないような勢力に発展し、ハワイなど世界各国で大きな山火事が発生していて、その背景に温暖化とそれに伴う気候変動が指摘されています。地球環境は大いに病んでしまったと言えるかもしれません。これ以上の温暖化は人類に壊滅的な被害をもたらすと言われてはいますが、各国もその国民もまだ他人事で、抜本的な取り組みは見られません。スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんの主張、政府の第6次基本計画や国連のCOP(気候変動枠組条約締約国会議)の合意内容を紹介しながら、気候変動問題を自分事として共に考えてみようと思います)
授業計画【第11回】	アベノミクスとは何だったのか (暗殺された安倍晋三首相が進めた経済政策とはどんなものだったのか。「金融緩和」「財政出動」「規制緩和」の3本の矢から成るアベノミクスを貫くのは「強い経済」で、長期金利をゼロに据え置き、非正規雇用を増やし、円安・株高で輸出型の大企業に恩恵をもたらしたとされます。その恩恵は「トリクルダウン」によって中小企業や多くの国民に滴るはずでしたが、かえって貧富の格差を拡大し、日本人の暮らしと地域を疲弊させた感があります。アベノミクスを検証することで、「新しい市本主義」の在り方を考えたいと思います)
授業計画【第12回】	文章の書き方～各社の社説比較も (いい文章とはどんなものか。内容を他者に伝わるようにするには何が必要か。新聞のコラムや社説を読みながら、小論文や卒論にも役立つ文章法を紹介したい)
授業計画【第13回】	社説を書こう④～自分のテーマを決め、図書館で本を探す
授業計画【第14回】	社説を書こう⑤～いざ執筆
授業計画【第15回】	「社説」発表会 (各自が書いた「社説」(時事問題に関する各自の小論文)を皆の前で発表してもらい、感想を述べ合い、講師が講評する)
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会で日々生起する問題に関心を持ち、問題の本質がどこにあるのかを自分の頭で考える習慣を身につける。 ・ 一強政治の下で公文書が破棄、改ざんされたり、強権的に政策が進められ、まっとうな議論が軽視されたりしがちだが、授業を通して民主的政治の必要性、人権や平和の尊さ、自然との共生の大切さを自分事として実感してもらう。
学位授与の方針(DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)
授業時間外の学習【予習】	授業計画で取り上げるテーマについて多くの新聞記事や雑誌記事、著書あるいはテレビのニュース番組・特番などに事前に目を通し(視聴し)、自分なりの考えや見方をあらかじめまとめておいてほしい。予習時間は40分を目標に。
授業時間外の学習【復習】	より詳しく知るためには教養書や専門書に当たったり、関心を持ったテーマのニュースをフォローしたりする。復習時間は40分を目標に。
課題に対するフィードバック	授業中に書いて発表してもらった「社説」については一人一人に感想を添える。
評価方法・基準	授業態度(無断で教室の外に出たり、朝食を取ったりしないなど)、授業中に書いてもらう「社説」、試験のレポートの総合点で評価する。
テキスト	特に用いない。日々の新聞がテキスト代わりにする。
参考書	『メディアの罠』(青木理ほか、産学社)、『人新世の「資本論」』(斎藤幸平、集英社新書)、『大学とは何か』(吉見俊哉、岩波新書)、『振り返れば未来～山下惣一聞き書き』(聞き手・佐藤弘、不知火書房)、『農の明日へ』(山下惣一、創森社)、『食卓の向こう側コミック篇』(原作・佐藤弘ら、作画・魚戸おさむ、不知火書房)、『食卓の向こう側』(佐藤弘ほか、西日本新聞ブックレット)、『アベノミクスと日本の論点』(農文協) このほかテレビではTBSの「サンデーモーニング」「報道特集」、BS-TBS「報道730」も必見。